ONAIR
放送大学通信 オン・エア
NO. 124

CONTENTS

新執行部に訊く これからの放送大学 …… 1
2016年度 学位記授与式 …… 4
2016年度 卒業・修了祝賀パーティー …… 8
まなぴーと学習センターをめぐる …… 10
学習センターサークルだより …… 12
研究室だより …… 13
就任のごあいさつ …… 14
2017年度 開設・改訂科目紹介 …… 16
インフォメーション …… 24

特集

新執行部に訊く これからの放送大学

2017年4月より、放送大学は新体制にてスタートいたしました。そこで、新執行部のご紹介としてこれからの放送大学について、來生学長、有川理事長、そして岡田副学長、池田副学長、宮本副学長よりご挨拶をいただきました。

寄稿 1

幕張の海に放送大学の舵取りを任されて

学長 來生 新

４月から新しく学長に就任した來生です。ONAIRに「新学長としての抱負等を」という学内広報委員会からのご注文。

注文を受けて反射的に頭に浮かんだことは、私の名前が「新」なので、離任の時でも新学長。親からもらった名が因果、新学長のままでの離任を避けられないという不吉な予感。その宿命は甘受するにしても、せめてあと４年、任期満了までは〽コノハナマチニ身ヲ置カセテクダサイと、まじめな気持ちでお願いをする意味で、「新」・新学長、ひょっとして新・「新」学長としての抱負等を、幕張の海を渡る船の船長になったつもりでまとめます。

放送大学は１９８３年設置。今年で設置後３４年になります。この３４年の間に、世界や日本社会の状況はインターネットの出現で大きく変化しました。ニューヨーク市立大学とイェール大学を結ぶBITNETが開始されたのが１９８１年ですから、本学が設置された１９８３年は世界でもコンピュータネットワークの黎明期、実験期。大量の学生に対する遠隔教育の手段は放送のみという時代でした。

そのような時代にあって、放送大学は放送と面接授業等で教育を行う、教養学部一学部からなる単科大学として設置され、その後、修士と博士の課程を設けましたが、学部は一つで、大学院も一研究科という基本構造は同じです。部局数を基準にした規模で見れば、決して巨艦大学ではない。しかし、３４年前の社会状況を反映した、放送局免許を持つ特殊法人「放送大学学園」が経営する大学という、本学の出自における独自性が、首尾一貫して、この大学のこれまでの航路や運航を非常に特殊なものにしてきました。

本学は、現在、法律に基づいて設置された特別な学校法人である、放送大学学園が開設した「私立大学」として位置づけられています。私学でありながらの特殊性は、本学が総収入の５５％にも上る国からの補助金を交付されていること、その国家的な保護の代償として、毎年度、文科省から業務計画の認可を得る義務を負うこと等に現れています。

このような小回りの利かない、操縦性の悪い船を

取り巻く海や港の状況は、３４年前とは一変しています。それに合わせた舵切りをどうするか。That is the question. ハムレットの悩みは To be or not to be ですが、一つ舵切りを間違うと、本学も財政危機という目の前に見えている浅瀬に乗り上げ、座礁して、とどのつまりは沈没ということになりかねない。「生くべき」は当然ですが、如何にして２１世紀の日本社会に対応した「活力ある生」を確保すべきかが今後の大学運営の中心課題。

その課題に対する答えは、インターネットの活用以外にはありません。放送では実現不可能であった双方向性の獲得が、放送大学の教育に新たな可能性をもたらします。本学の放送による教育の実績とノウハウを生かしつつ、新たな教育手段であるオンライン教育をいかにfusionさせるか。換言すれば、オンラインと放送のバランスをどうとりながら、オンライン授業やオンライン技術の活用で、放送大学を世界に冠たる存在にすることができるか。この問題についての解答を具体的に見出していかねばならないと考えています。

オンライン１００科目開講が当面の目標ですが、その時のテレビとラジオの科目数のバランス、それを実現する手法の確立が新執行部の喫緊の課題。

由良の門で舵を失う船人の、行方知らずの恋の道なら艶ですが、幕張の浅瀬で舵絶えては洒落にもならない。日本社会の大切な教育インフラストラクチャーとして、次の港に無事入港ができるように、慎重に水路を探りつつ大胆に舵取りをしたいと思っています。皆さん、小さいけれど「大船」に乗ったつもりで、乞うご期待。どうかよろしくお願いします。

寄稿 2

放送大学の新たな可能性

理事長 有川 節夫

放送大学は開校して３４年を迎えました。この間、進展の著しいネット社会にも対応し、テレビやラジオによる放送授業、印刷教材による指導や通信指導、オンライン学習等をベースにし、全国５０箇所に設置された学習センターにおける面接授業やビデオ学習によって、他の大学にないユニークな高等教育を可能にしてきました。

教養学部は、放送枠一杯を使った３００を超える体系だった科目群で構成され、学位を目指す全科履修生だけでなく、選科履修生、科目履修生などの制度も取り入れて、誰もが自分の必要と関心に応じて受講し、単位が取れるようになっています。大学院の修士課程と博士後期課程も充実してきました。

放送大学は、こうした学位や単位取得を目的とするプログラム以外に、国家試験の受験資格取得、社会教育主事、教員免許更新講習、認定心理士、看護師国家試験受験資格、看護師特定行為研修などにも対応しています。また、地域との連携協力も盛んに進め、新しい形の活動も始まっています。

このように、社会の要請に迅速に応えて、数多くの実績をあげてきました。しかし、高等教育や生涯学習をめぐる社会の状況は絶えず変化し、進化しています。最近のSNSや映像を扱える便利な双方向の通信手段の浸透、人工知能やICTの発展に伴う社会全般の変化にも強い影響を受けています。アクティブラーニングや反転授業、MOOCなどに見られるように教育の方法論にも大きな変化が生じ、教育・学習に一層の双方向性が求められるようになってきました。

こうした教育の媒体や方法論、内容の変化に加えて、高等教育が共通に抱える課題に対しても、放送大学がこれまでに培ってきた伝統と信頼、方法論と基盤を継承・発展させ、その上で、地域の大学などへの教養教育の提供や産業界との連携も視野に入れて新しい資格が取得できる教育分野の開拓を含めて、意欲的に組織をあげて取り組んでいきたいと考えています。

寄稿 3 就任のご挨拶

副学長 岡田 光正

このたび、理事・副学長を拝命しました。來生学長を中心とする執行部の一員として、よりよい放送大学とするために微力を尽くしたいと思います。よろしくお願いいたします。

私の専門は環境工学です。水環境やその生態系の保全や管理、さらには再生に関する技術開発や制度作りを行ってきました。環境問題には様々なステークホルダーが関係し、一筋縄では解決できません。しかし、どこかで合意しないと問題解決が先送りとなり、もっと悪くなりかねないということを数多く経験してきました。

放送大学の運営も同様と思います。來生学長の所信表明にある教育の課題と新たな教養理念の実現、オンライン授業等と教員の負担軽減、教員評価の実質化、学習センターの新展開等の理念を如何に実現するか、精いっぱい努力したいと思います。教職員のみならず、学生の皆様も含め、放送大学一丸となったご協力をお願いいたします。

寄稿 4 インターネットのススメ

副学長 池田 龍彦

放送大学の放送授業は、地上波とVHFビデオによる視聴から始まり、CS放送を経てBS放送、そしてインターネットを通して時間と場所を選ばずに科目を自由に選んで視聴が可能となっています。神奈川学習センター所長としての４年間の現場でのさまざまな出会いの中で、学生ボランティア組織「パソコンサポート」の支援により、「通信指導をネット経由で提出できた！」と喜んだ８０歳ご婦人の満面の笑みは忘れられません。

ネット接続で放送大学のサービスレベルが飛躍的に拡大します。この世界に未だ踏み込んでいない方は一度門を叩いてみませんか。本年度１年かけて学習センターにタブレット端末が設置され、駅で切符を買うように簡単に放送授業が視聴できるようになります。ネット接続で科目登録をするにはもう少し努力が必要ですが、全国５０の学習センターはみなさんをお待ちしています。Ever onward（限りなき前進）で行きましょう！

寄稿 5 時代の要請に応える教育編成

副学長 宮本 みち子

社会状況の大きな変化を前に、放送大学の飛躍のためには社会のニーズ、学生のニーズを的確に把握して時代の要請に応えるメリハリのある教育編成が必要です。放送大学をめぐる近年の動向をみると、職業資格科目の開設要請がつぎつぎと来ています。

働くことと学ぶことを一体化してキャリアを作っていく時代が広がり、放送大学への期待はさらに高まるでしょう。社会人の基礎固めをする段階にある２０代、３０～４０代の働き盛りの人たち、第二の職業人生を想定して準備をすべき５０代の人たちと、現役世代のニーズに応える科目を積極的に作る必要があります。その一方で、地域社会に生起するさまざまな課題解決の担い手として、放送大学で学ぶ学生は貴重な人財です。“学んだことを活かす”ことを標語に、これまでにも増して志と力のある人財を地域社会に送り出したいものです。さらに、高等教育につながる多様な道筋を作ることも時代の要請ですが、放送大学こそその力をもっていることを自認して大胆な取り組みを進めたいと思います。

2016年度 学位記授与式が行われました

2017年3月25日、2016年度学位記授与式がNHKホールにおいて挙行されました。今年は松野博一文部科学大臣、金子めぐみ総務大臣政務官をはじめとするご来賓の方々のご臨席のもと、岡部洋一前学長から卒業生総代・修了生総代に卒業証書・学位記が授与された後、学長による式辞、そして卒業生・修了生の代表が謝辞を述べました。

さらに学長表彰として、名誉学生の表彰、特別賞の表彰に続き、「優秀授業賞」の石丸昌彦教授、「教育功績賞」の田城孝雄教授の表彰が行われました。最後に、岡部前学長指揮による学歌斉唱で2016年度の学位記授与式は幕を閉じました。

学長式辞

前学長 岡部 洋一

本日、めでたく卒業を迎えられた卒業生の皆さん、また修士論文をまとめられ、修士課程を修了された皆さん、ご卒業おめでとうございます。本学の教職員を代表して、心からお喜び申し上げます。また、皆さんをずっと支えてこられたご家族、友人の方々も多数お見えかと存じます。どうか、皆さんで卒業の喜びを分かち合っていただきたいと思います。

また、本日は、松野文部科学大臣、金子総務大臣政務官を始め、多数の御来賓の方々をお迎えし、かくも盛大な学位授与式を挙行できました。誠にこの上ない喜びであります。

毎年申し上げていることがあります。まず第一に、「本日、ここまで来られた自分を褒めていただきたい」。放送大学は生涯教育の大学ですから、多くの学生は、仕事や家事と勉強を両立させなければなりません。試験や面接授業のときに、出張を命じられた、子供が熱を出したなど、必ずしも順調に単位が取れるとは限りません。また、何よりも、孤独に勉学せざるを得ないという大きな障害があります。そのような環境に置かれながら卒業まで至った自分をぜひ褒めていただきたい、またご家族や友人の方と喜びを分け合っていただきたいと思います。

第二に申し上げたいのは「放送大学の卒業生であることに、誇りを持っていただきたい」。放送大学の専任の先生も外部にお願いしている先生も、皆さん日本で代表的な著名な先生方です。そして何よりも、本学の放送授業や印刷教材は常に外部に晒されていることで、高い質を保っています。また、単位認定試験は、極めて厳正に採点されています。皆さんはこうした第一線の先生と厳格な試験を経てこの場にいらっしゃることに、改めて誇りを感じていただきたいと思います。

さて、私が毎年同じようなことを申し上げるのは、実は皆さんに「自信」を持っていただきたいからです。第一に述べた達成感、また第二に述べた誇りが自信に繋がって欲しいのです。

自分のことを申し上げますが、大学で学んだことのかなりはどんどん陳腐化していきます。私が卒業した工学系などはその最たるもので、大学で学んだことが利用できるのは、科目によっては十年も持ちませんでした。しかし、新しい知見が出てきても、いやその程度のことは必ず習得できるぞという自信は持つことができ

ました。また、さらに、その自信が、努力すれば何でも達成できるぞという一段上の自信に昇華していきました。

こうしたその気になればいつでも再習得できるんだぞという自信、ものごとを最後まで仕上げることができるんだぞという自信、卒業や修了まで至った皆さんは、以上述べた以外にもそれぞれに何らかの自信を、おそらく複数得たのではないかと思います。これからの生活の種々の局面で、自信があるかないかは、物事の遂行に大きな影響が現われます。

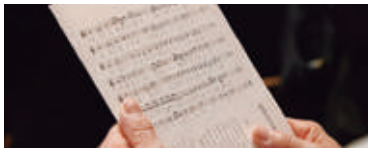
ただし、自信過剰や教養を威張って外部に示すことは望みません。自分の能力を正しく評価し、その力を正しく示すことが肝要なのです。

さて第三の話ですが、この学びによって得られた自信をもって社会還元していただきたいと思います。力を職場や家事に生かすのもよし、ボランティア活動に生かすのもよし、さらなる研究に生かす人もいるかも知れません。申し上げたいのは、学んだことをどこでもよいから、どこかに生かしていただきたいのです。

放送大学は全国的にも珍しい教養学部一本の大学です。一般の大学における各専門の学部の講義に比べると深さが足らないという難があります。しかし、同じ時間である特定の分野を学ぶのか、ある程度広い分野を満遍なく学ぶのかどちらがよいのかは一概に語られないと思っています。しかし、例えば日本の博士は使いづらいという事をしばしば聞きます。それは日本の博士の教育が非常に狭く深く研究することばかりに特化しており、博士修了生は自分の固有な研究分野以外をやりたがらないところにあるようです。2 年前に放送大学に作られた博士課程はそこを問題視して、狭い深い研究と合せて、広い分野にも対応できるように設計しました。

つまり言いたいことは、広い教養を有するということは、社会で活躍するために役に立っても、困ることはないということです。それに必要に合せて専門分野を新たに勉強すれば、鬼に金棒になるのです。教養は他人に見せるものではなく、うまく使うことに意味があります。また、使うことにより、さらなる力が付いていくのです。ぜひとも、本学で学んだことを生かして、何らかの社会貢献をするようにしてください。それが、正に生きた教養と言えます。

本学に在籍したことにより、力強く生きるすべ、したたかに生きるすべを得たのだという自信を持たれるとともに、それを力に他人に優しい、包容力のある人間になっていただきたいと念じて、改めて、おめでとうを申し上げ式辞と致します。

前学長と前理事長を交え来賓と総代の方々

謝辞

教養学部卒業生代表
情報コース　久保田 和臣

本日は、私たち卒業生のために、このように厳粛で盛大な学位記授与式を挙行頂きまして、誠にありがとうございます。ご指導頂いた先生方、学習センターや附属図書館の職員の皆様、多くの関係者の方々の支えがあり、学位記を賜ることができました。深く感謝申し上げます。また、ご多忙の中ご臨席頂きましたご来賓の皆様方には、温かいお言葉を頂き、心よりお礼申し上げます。

振り返れば、私は放送大学に平成５年に入学し、これまでに千葉学習センター所属の学生として、自然の理解、産業と技術、社会と経済、人間と文化、情報の５つの専攻・コースを卒業いたしました。いくつものコースで勉強してみて、入学前には想像すらできなかった新たな視点が身についたことを実感しました。もともと理系人間だった私が、社会科学、人文科学系のコースを選択することで、社会の仕組みについて、より詳しく理解することができるようになりました。今では私の大きな宝物の一つです。

長い間放送大学で勉強しておりますと、何人もの先生方から、忘れ得ない経験をさせて頂く機会に恵まれました。本日は、三人の先生方について紹介申し上げます。

一人目は、音楽学がご専門の笠原潔先生です。先生は西洋古典音楽、日本への西洋音楽の流入の歴史から日本の音楽考古学に至るまで、深く幅広い見識をお持ちの方で、多くの知識を吸収させて頂きました。淡々と落ち着いて話されながらも、とても熱いハートをお持ちの先生で、バッハに関する面接授業のとき、授業を受けながら胸が一杯になり、思わず涙をこぼした事を、昨日のように思い出します。ただ、先生は若くしてご逝去なされたことが、残念でなりません。

二人目は、最初の卒業研究でカオスに関してご指導くださいました、東京大学の合原一幸先生です。先生は、少しの議論でも即座に本質を見抜き、改善点へのヒントを与えて頂くスタイルが特徴的でした。頂いたヒントを基に一生懸命数値計算をしますと、パッと目の前が開ける瞬間が訪れ、先生に得られた結果を返答しました時、微笑んでいらっしゃったのを覚えています。先生は、卒業研究提出後さらに一年間面倒を見てくださり、成果を英文の論文に纏め、投稿することができました。

三人目は、今回三回目の卒業研究でご指導頂きました鈴木一史先生です。2014年に開講された富山学習センターでの面接授業で、予習して準備しておいた3DCGのアニメーションに関して、発表する機会を与えてくださいました。このことが励みになり、今年度の卒業研究「3D　グラフィックスソフトウェア POV-Ray を用いた可視化に関する研究」に纏めることができました。カオス、フラクタル、反応拡散方程式、分子振動など、いくつもの可視化に関する動画をプログラミングいたしました。

最後になりましたが、放送大学のさらなる発展と、本日ご出席の全ての皆様のご健康、ご活躍を心より祈念申し上げ、謝辞とさせていただきます。

学位記受領総代 教養学部

社会と産業コース 井上 邦子さん（京都学習センター）

学位記受領総代 大学院文化科学研究科

人文学プログラム 市橋 雄二さん（埼玉学習センター）

謝辞

修了生代表
社会経営科学プログラム　國安 真奈

本日は、岡部学長をはじめ諸先生方、ならびにご来賓の皆様にご臨席を賜り、このような印象深い学位記授与式を開いて頂きましたこと、修了生を代表し、心より御礼申し上げます。

私が放送大学院の願書を提出したのは、大学院で学ぼうと思い立ってから十年近くも経過した後のことでした。ためらっていた理由は、義務教育終了を最後に日本の学校では学んでいなかったことです。

私は、今は亡き父の転勤に伴われ、４０数年前にブラジルへ渡り、彼の地で高校・大学を卒業しました。転勤族の子女は通常アメリカンスクールを選択し、ブラジルの高校や大学を卒業する者はほとんど皆無という時代です。当時のブラジルは日本とは学制が異なり、義務教育が日本の９年間に対し、８年間とされていました。ですから、日本の義務教育修了資格はブラジルの高校編入時に問題なく適用されました。しかし、ブラジルの大学卒業証書は日本の大学院で認めてもらえるのだろうか。友人や家族は、とにかく願書を出してみればと勧めてくれましたが、私自身は否定されるのではと怖くて、なかなか決心がつかなかったのです。

しかし、心配は杞憂に終わりました。思い切って提出した出願資格事前審査は、問題なく受理され、受験を経て無事入学することができました。放送大学に、またとないチャンスを頂いたのだと思いました。

論文のテーマは『日伯セラード農業開発協力事業とブラジル農村社会についての一考察－農業近代化が取り残したもの』としました。近年再び脚光を浴びているこの事業について、現地の小規模農業生産者に視点を当てて分析しようとするものです。通訳・翻訳者としての自分の職業経験を活用し、ポルトガル語および英語の文献を中心に文献研究に取り組みました。テーマを決めた時には自分でも不思議なほど思い至りませんでしたが、この協力事業の第一期が行われた時期は、ちょうど私がブラジルで大学に通っていた時期に重なります。必然的に論文は、当時のことを、亡き父の面影とともに思い出させてくれるものにもなりました。

寝ても覚めても論文のことを考えていた2年間でしたが、これほど充実した日々を過ごせましたのは、私の拙い発表を辛抱強く聞いて御指導下さり、論文ドラフトを懇切丁寧に見て下さった指導教員の河合明宣先生、折々に重要なヒントを与えて下さったTAの皆様方、励まして下さったゼミ生の皆様方、応援してくれた息子たち、そして何より、最初にチャンスを与えて下さった放送大学のお陰です。幾ら感謝を申し上げても足りません。

私たちは今日、修了というゴール地点に立ちましたが、学ぼうとする意欲と好奇心には限界はありません。独自性をもって社会に貢献していくことの大切さを常に念頭に、これからも研究や仕事に精進していくことをお誓いし、修了生を代表しての謝辞とさせて頂きます。ありがとうございました。

特別賞

加藤 榮さん（北海道学習センター）

放送大学優秀授業賞・教育功績賞

（左）放送大学優秀授業賞 石丸 昌彦教授、（右）教育功績賞 田城 孝雄教授

2016年度 卒業・修了祝賀パーティー

2016年度の卒業・修了祝賀パーティーが、ハイアットリージェンシー東京にて開催されました。岡部前学長、津野同窓会連合会会長の挨拶にはじまり、退任される教員を代表して吉岡一男教授から挨拶をいただきました。そして宮野千葉学習センター所長指揮による「仰げば尊し」の合唱の後、白井前理事長による乾杯の挨拶がありました。今年は例年以上にたくさんの卒業生・修了生が参加し、会場が溢れるほど盛況な祝賀パーティーとなりました。

卒業生・修了生 インタビュー

interview 1

青森学習センター
八戸サテライトスペース
小野寺 君枝さん

2016年度学位記授与式に5453名の卒業・修了者の一人として晴れて出席できたことを嬉しく思います。私は、高校、医療系専門学校を卒業し国家資格を取得し勤務をしてきました。思えば日々の仕事、社会での様々なニュース、医療、健康、生活、家族との関わりなどから様々な疑問、問題、それに対しての解決策はどの様にすればよいのだろうか？ 今まで学んだ専門的知識に加え新たな知識や興味、関心のある分野への探究したい気持ちは高まっていきました。

放送大学の存在を知ってから、決心して編入学に至るまで数十年かかりました。以前から大学で学びたい。そして卒業して大卒の資格を取得したいと希望はあるものの仕事と家庭との両立と時間や学費の負担。興味のある学びたい授業はあるのか？ 続けることができるのか？ など沢山迷いましたが、子供の成長を見届け自分のたっての希望を叶えることができました。仕事の関係で面接授業や学部単位認定試験の日程、科目選択が思う様に決めることができない、疲れて勉強が全くはかどらないなど大変な事もありましたが、今では良い思い出です。「教養」は、これからの仕事、人生において知識、精神を豊かにし、人間力を増すことができ、より良いコミュニケーションを築くことに活用できると考えています。今後も「教養」を学ぶ考え、姿勢を継続しあらゆる場面、状況においても役立てていきたいと考えています。

放送大学、青森、八戸サテライトの皆様本当にありがとうございました。

interview 2

茨城学習センター
住谷 広子さん **染谷 聡子**さん

住谷さん：大学卒業という日が本当にくるとは、夢にも思っていませんでした。高校を卒業した時から諦めていたはず。だが、いつも心のどこかに大学へ行きたかった、いや、逃げる口実を「行ってたら」「行ってれば」を使って自分で作っていたのかもしれません。そんな時に目にした雑誌の投稿で年配の方の放送大学の様子、あれ？ 私にも出来るかもと、資料を取り寄せ学習センターへの見学。それから5年半かかりましたが、この卒業証書を手に今日を迎える事ができ感無量です。これからは、自信を持って「行ったから」が使えそうです。まだまだ、学ぶ事は沢山あります。諦めないで一歩一歩進んで行きたいです。

染谷さん：編入学してから卒業まで4年半かかりました。何のために勉強しているのだろうと考えた時期もありましたが、家族の理解と応援に支えられて今日を迎えることができ、家族には感謝しています。そして素晴らしい先生方の講義を受けることができたこと、仕事をしながら勉強してきた自分を誇りに思います。放送大学では、単位認定試験後の解放感と次学期の履修科目を選んでいる時の高揚感が気持ちの良いものでした。『くせになる放送大学』と言っていた方がいましたが、私も少しお休みしたら、再入学し学び続けたいと思います。

interview 3

神奈川学習センター **髙橋 知成**さん

私は26歳の脊髄性筋萎縮症の肢体不自由者で、18歳の高校卒業後、放送大学に入学し8年ほど勉学を楽しみました。

そして、最後の2年程の間、自らの意思で卒業研究という己が人生最大の挑戦をしました。時にそれから逃げ出したくなるほどのプレッシャーを感じたり、さまざまな困難がありましたが、各方面の方々の助力があり、何とか卒業研究を完成させることができました。とても感謝しています。

最後に申し上げたいことは、人生は1度しかありませんが、何度でもやり直すことができます。そして、この放送大学は“自分に自信”を持たせてくれる場所だと思っています。

interview 4

徳島学習センター **大戸井 祥二**さん　愛媛学習センター **青木 芳弘**さん

大戸井さん：初年の選科履修生から始めて10年、頑張って4度目の卒業ができたことを嬉しく思います。四国という田舎で働きながら学び続けることは、他の方も同様とは思いますが困難なことが多いと感じます。しかし、放送大学では面接授業のほか、facebookやtwitterなどのSNSを通じて全国の学友と知り合い励まし合いながら学ぶことができました。学友たちに導かれて卒業できたのではないかと感謝の気持ちでいっぱいです。大したことはできませんが、今後仕事や地域活動の中で放送大学で学んだことが少しでも活かせたらなと考えています。

青木さん：卒業が決まって、ほっとしたと同時に「これで卒業していいのか?」という気持ちになりました。私は、学歌の歌詞「生きるとはまなぶこと まなぶのはたのしみ」の様に心理学を楽しく学ぶことができた気がします。仕事を休むことが難しかったのですが、自分に無理のないペースで勉強してきました。また、SNSで知り合った仲間との交流により学びがさらに楽しくなりました。この学びを仕事や趣味の合唱団活動に活かせればと思います。最後に放送大学から、学ぶ事の楽しさを教えていただきました。もう一度戻れるなら戻りたい、そう思っています。

2016年度 名誉学生
（学生表彰）

名誉学生とは、教養学部の全てのコース（又は専攻）を修了した者で、かつ、人物、学習態度が良好である者に対し与えられる称号です。

名誉学生表彰
代表 林 秀隆さん

名誉学生一覧（50音順、掲載許可を得られた方のみ）

学生氏名	所属学習センター
赤嶺　治美さん	神奈川学習センター
荒井　久勝さん	東京文京学習センター
井上　淳さん	佐賀学習センター
大北　穆さん	香川学習センター
金井　彰彦さん	神奈川学習センター
菊池　宏美さん	岩手学習センター
木村　達成さん	東京文京学習センター
小林　俊夫さん	新潟学習センター
田中　正博さん	東京渋谷学習センター
戸井田　充義さん	東京文京学習センター

学生氏名	所属学習センター
鳥羽　治利さん	群馬学習センター
橋本　紘征さん	兵庫学習センター
林　秀隆さん	岐阜学習センター
福田　暉さん	埼玉学習センター
福田　英幸さん	熊本学習センター
松井　政博さん	大阪学習センター
宮﨑　誉士さん	千葉学習センター
森川　玲子さん	埼玉学習センター
山口　眞知子さん	埼玉学習センター

学習センターを

まなび～とめぐる♪

全国学習センター学生リポート！

広島学習センターにまなびーが来てくれました。路面電車の乗り心地はどうだった？学習センターは電車を降りてすぐですよー。

広島学習センター

大志を抱けのポーズで2ショット。はい、私、もっと勉強します…！ 仕事をしながら大学の勉強ができることにあらためて感謝です。

図書館

まなびーは学びを届ける鳩という使命があるので図書室のチェックを。私もこの図書室と資料システムにひたすら支えていただいています。

広島

広島学習センター

安原 義仁前所長

伊本 多江さん

学生リポーター

伊本 多江さん

広島市への転勤と、ネット配信の科目が増えてきたのを機に、放送大学へ入学しました。勉強が楽しくて面白くて、卒業した今も修士選科生として在籍中。忙しさを癒してくれるお花を学習センターに飾っています。花の世話や寄付をしてくださる方々にも大感謝です。

サークル活動

広島学習センターにはたくさんのサークルがあります。私も、お花や植物を飾って楽しむ会に参加しているので、この日もお花でまなびーをお迎えしましたー。

テレビ出演

まなびーが広島の夕方情報番組に出演しました!!生中継にまなびーもドキドキ…しっかりと放送大学をPRできたかな～??

旧澤原家住宅の「三ツ蔵」＝呉市長ノ木町

まなびーの生みの親でもある、こうの史代さん原作の映画『この世界の片隅に』のロケ地（呉市）へ行ってきました！まなびーもいつか映画に出演できるかな～?

広島学習センター　〒730-0053 広島県広島市中区東千田町1-1-89（広島大学東千田キャンパス東千田総合校舎内）　電話:082-247-4030

放送大学のイメージキャラクター、まなぴーが、2つの学習センターにお邪魔しました。そして、各学習センターに所属する学生の方に、その学生生活の一部を見せてもらいました。

まなぴーは2008年9月に生まれた放送大学のイメージキャラクターです。「あなた」の心に学びを届ける伝書鳩をイメージしています。命名の由来は、放送大学で学び、未来への夢を広げる鳩。「ピー」は鳥の鳴き声、平和のピース。キャラクターデザインは、漫画家のこうの史代氏（2001年放送大学卒業）です。

青森

青森学習センター

青森学習センター

青森学習センターは弘前大学のキャンパス内のコラボ弘大の7階にあり、東には八甲田連峰、西には岩木山を望むことができる素晴らしい環境の中にあります。

面接授業

「白神学ー白神の動物と植物」は、現地（世界自然遺産白神山地）で開講する授業で、受講希望者が多く一押しの講義です。「白神の自然の奥深さに感動した」などの感想が多く寄せられます。

学生リポーター
五十嵐 祐子さん

2011年4月に入学し、今年3月に念願の学位取得。4月より再入学し、卒業研究をしてみたいと思っています。大学生活7年目。様々な年代、経歴をもつ学友ができ、人生の経験値UP中です。

ミステリーサークル

学生同士の親睦を目的としたサークルで、マジック、音楽、写真、太極拳をメインに活動しています。センターの催事の他、地域の様々なイベントにも積極的に参加しています。

弘前さくらまつり

日本有数の桜の名所弘前公園で、学友会主催による毎年恒例の観桜会を行いました。園内に咲き誇る2600本の桜を目当てに全国から多くの観光客も訪れます。日本一とも言われる美しい桜の中でのお花見は最高の贅沢です。見事な桜の景色と楽しい会にまなぴーも大興奮でした。

八戸SS

サテライトスペースは東北新幹線八戸駅に接続する八戸地域地場産業振興センター（ユートリー）4階にあります。スタッフと国の重要無形文化財にも指定されている「八戸三社大祭の山車」が皆様をお待ちしております。

青森学習センター　〒036-8561 青森県弘前市文京町3コラボ弘大7階　電話:0172-38-0500

学習センター
サークルだより

全国の学習センターにある魅力的なサークルをご紹介します。
入会希望・お問い合わせは、サークルが所属する
各学習センターまでお願いします。

静岡学習センター circle 学燈会「伊豆半島ジオパーク研究会」

2016年９月現在、日本ジオパークは43地域、その内８地域がユネスコ世界ジオパークです。

静岡学習センターは、今年ユネスコ世界ジオパーク認定に再チャレンジする伊豆半島ジオパークのエリア内に所在し、近くには世界遺産「富士山」、「韮山反射炉」があります。私たちジオ研（伊豆半島ジオパーク研究会）は、“南から来た火山の贈りもの”伊豆半島の成り立ちを知るだけではなく、貴重な地層、岩石、地形などを実際に見て、触れて、感じるジオツアーを実施しています。学燈会では、この他にも「川柳クラブ」、「発声と朗読の会」、「英文会とドイツ語学習」、「ぷらす1クラブ(写経)」、「リーディングクラブ(タロット占い)」、「マイライフ倶楽部(日常経済学)」、「アルゼンチンタンゴ研究会」など、文化変容を考える様々な魅力的なサークルがあり、充実したキャンパスライフを送っています。

主宰:池谷 美津子さん

静岡学習センター　〒411-0033 静岡県三島市文教町1-3-93（静岡県立三島長陵高等学校2階）　電話:055-989-1253

福岡学習センター circle 那ノ津読書会

那ノ津読書会は、福岡学習センターの初代所長の大村 武先生と有志で平成８年に作られた会です。毎月１回十数名の会員で、現在は「所長ののちごと」「般若心経」「枕の草子」の三本立てで読んでいます。「所長ののちごと」は、平成３年に放送大学東京第二学習センター所長だった加瀬滋男氏が、学生諸氏との対話の機会を少しでも多くしようとの考えから書かれた随筆集で、暖かい人柄が伝わってきて学問の世界が広がります。

主宰:眞﨑 澄江さん

「般若心経」は難しいですが、皆で写経したり、四国遍路に行きたいなと思い頑張って読んでいます。良書を読み議論することで、柔軟な考えができるようになりました。

さらに、清少納言の感性と機知を少しでも身につけ、明るく生きていきたいと思います。皆さんも自宅で一人で勉強するだけでなく、面接授業やサークル活動を通じて多くの仲間を見つけ、大学生活を満喫しましょう。

福岡学習センター　〒816-0811 福岡県春日市春日公園6-1（九州大学筑紫キャンパス内E棟4・5階）　電話:092-585-3033

科学技術と法･社会の制度デザインを目指して

社会と産業コース･
社会経営科学プログラム 教授　児玉（こだま） 晴男（はるお）

新領域法学と学習支援システムが私の研究領域であり、主要な研究テーマは「学術コンテンツの流通・利用を促進する知的財産制度の研究」になります。この研究の流れの一つは、「学習コンテンツの流通・利用を促進する著作権・知的財産制度デザイン」であり、学習コンテンツの制作・著作システムとの連携の観点からすすめています。研究成果としては、「オンライン講義の公開に関する知的財産権管理」「オンライン授業のコンテンツ開発とそのプラットフォーム」があります。それら知見とプロトタイプは、放送大学のオンライン授業の制作・著作と密接に関連していると思っています。

総研大レクチャーでの総研大院生と連携大学院院生との講義風景

もう一つの研究の流れは、「学術情報の流通・利用を促進する法制度デザイン」です。この研究の内容は、科学技術と社会、科学技術倫理等とも関連しています。その契機は、慶應義塾大学大学院理工学研究科グローバルCOEプログラム（情報・電気・電子分野）の教育プログラム「科学技術倫理と著作権」と、放送大学院生にも公開して実施した総合研究大学院大学（総研大）の全学教育事業・総研大レクチャー「科学技術倫理と知的財産権」の教育実践にあります。

現在、上記の各研究内容を統合し、学会活動の統一論題「先端技術・情報の企業化と法」とも連携し、科学技術法に関する研究への展開をはかっています。

放送大学のICTスキル向上をめざして

情報コース･
情報学プログラム 教授　三輪（みわ） 眞木子（まきこ）

放送大学では、学生の利便性を考慮して、システムWAKABAやキャンパスネットワーク、図書館の電子情報サービスなど、ICTを活用したさまざまなサービスを提供していますが、ICTスキルを身に着けていない高齢学生は、これらのサービスの恩恵を受けることができませんでした。この課題を解決するために、2010年の2学期から、面接授業「初歩からのパソコン」を全国の学習センターで開設しています。この授業では、情報コースの6名の教員が手分けをして執筆したテキストを使用し、この授業を教える各学習センターの非常勤講師のために、パワーポイントによるモデル教材を作成することで、放送大学の学生に必要な基本的ICTスキルを教えてきました。また、私が秋光先生とご一緒に開設しているテレビ授業「遠隔学習のためのパソコン活用」では、自宅でパソコンを使う学生に求められるICTスキルを身に着ける機会を提供しています。

「新･初歩からのパソコン」の電子テキスト（キャンパスネットワークホームページ）

2015年度には、オンライン授業が始まりました。オンライン授業では、単位認定試験を受けるために学習センターに出向く必要がないので、社会人や遠隔地に居住する人々にも受講機会をもたらすものと思います。「初歩からのパソコン」は、オンライン授業の受講に必要な基本的ICTスキルを加えて、2017年度からは「新・初歩からのパソコン」として全国の学習センターで開設します。この授業の電子テキストは、キャンパスネットワークの資料室に補助教材として搭載したので、ぜひご活用ください。

心理学のおもしろさ

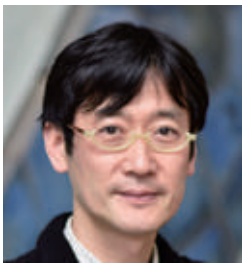
心理と教育コース 教授　進藤（しんどう） 聡彦（としひこ）

国立大学の教育学部を経て、４月から放送大学に赴任しました。私の研究の中心は、教育心理学のなかの「教授学習過程」の領域です。簡単にいうと、学校の教科の学習内容について、どう教えれば子ども達が理解できるのか、またどうしてその条件の下だと理解が進むのか、そのメカニズムを探っています。そして、教科の学習内容を取り上げるわけですから、当然その教科の勉強も欠かせません。少し突っ込んで勉強すると、小学校や中学校の内容でもなかなか手強いことを実感しています。

ところで、振り返ってみると、学生時代に心理学をおもしろいと感じ、大学院に進学して勉強を続けようと思ったのは、人の心理、行動の多様性のおもしろさに加えて、複雑な人の心理、行動の規定因を実験や調査を通してどう特定していくか、その研究法の工夫にもおもしろさを感じたからです。心理学を学ぶ学生の皆さんにも、同様のおもしろさを感じていただければと思っています。

放送大学で第二の人生を

心理と教育コース 教授　大山（おおやま） 泰宏（やすひろ）



このたび、心理と教育コースに教授として着任いたしました。前任校である京都大学大学院教育学研究科では、准教授として臨床心理士をめざす学生たちの心理療法実践と研究を指導しておりました。定年まで１５年を残し早期退職し、私自身が第二の人生を歩むべく、放送大学に移って参りました。

実は放送大学との関わりも長く、ラジオ科目「人格心理学'０９」を担当させて頂いたときから、現在のテレビ科目「人格心理学'１５」に至るまで、すでに９年目に入ります。その間、この大学で学ぶ学生さんたちの意欲と熱心さに心動かされ、とてもやりがいのある仕事だと思っておりました。このたび縁あって専任として赴任することとなり、これからの教育と研究の活動がとても楽しみです。私が専門とする臨床心理学を、平易に奥深く説く試みを柱に据え、この学問の面白さを皆さんに伝えつつ、臨床心理学の発展自体にも寄与していきたいと思います。

実に様々な皆様と共に

社会と産業コース 教授　迫田（さこだ） 章義（あきよし）

この４月に教授として着任させて頂きました。それまでは大学の理工学系の附置研究所に在籍し、日々の講義や大学院入試などの教育活動もとても重要な仕事でしたが、やはり中心的な仕事は、新しい技術や材料などを、化学工学的な実験や解析などによって研究開発することだったと思っています。また、この研究開発については、研究室の修士・博士課程の大学院生だけでなく、学内の他部局、国内外の大学や研究機関の多くの方たちとチームを組んで取組むことにやりがいを感じていました。さて、ここ放送大学に来て新たなことに挑むことになります。放送やオンライン等の授業を実施するとともに、これまでの知識、経験、さらには人脈をも再編成、総動員して、実に様々なバックグラウンドを持ち、学習意欲に満ち溢れた方々が、学士・修士等の学位を取得されることのお手伝いができれば幸いです。期待より不安の方が大きいですが、楽しみながらマイペースでやっていこうと思います。

環境デザインの文化とリテラシーへ

社会と産業コース 教授 宮城（みやぎ） 俊作（しゅんさく）

これまで約３０年間にわたり、大学教員の立場から環境デザインの設計実務に携わる、いわゆるプロフェッサー・アーキテクトとして活動してきました。今後もそのスタイルを維持し、デザインの理論を実践的な設計行為の過程において検証するとともに、そこからさらなる研究課題を抽出し、学術研究へと還元するサイクルを反復していくことになると思います。また、放送大学での授業や研究指導を通じて、このような分野に深い関心を持つ人たちの輪がひろがり、やがて日本の社会の中で、環境デザインの文化やリテラシーの向上へとつながっていくことが理想です。さらには、そのプロセスを通じて、自らのデザインの実践活動に新たな課題と刺激、そしてこれまでにないようなインスピレーションがもたらされることを大いに期待しています。

生涯を通じた知的探求は私の生き甲斐

社会と産業コース 教授 李（りー） 鳴（みん）

私は上海の出身で上海外国語学院大学卒。３０歳のときに留学のため来日し、横浜国立大学大学院修士課程（法学）修了後に明治生命（現明治安田生命）に入社しました。四十代後半に、企業法務で求められる法律の知識をより堅固なものにするために慶応義塾大学通信教育課程に入学し、３年間、仕事をしながら日本の法律を体系的に勉強しました。五十代前半に、同大学大学院後期博士課程に進学し、働きながら博士号（法学）を取得しました。

このように生涯を通じた知的探求は、私の生き甲斐であり、人生の核となっています。このたびは、その経験を生かして、職業生活の最後に放送大学で教職に就くことができたのは、私にとってこの上ない幸せです。この幸せをこれからの教育と研究を通じて、今日の私を育ててくれた中国と日本の社会に還元したいと思います。そして、同じく生涯を通じた知的探求に取り組まれている皆さんとの出会いをとても楽しみにしています。

昇任教授のお知らせ

CONGRATULATIONS!

2017年4月1日付にて、
教授に昇任いたしましたので
お知らせいたします。

情報コース・情報学プログラム 教授 芝崎（しばさき） 順司（じゅんじ）

初歩のスペイン語（'17） 基盤科目

清泉女子大学教授
（放送大学客員教授）木村 琢也（きむら たくや）　清泉女子大学准教授 パロマ・トレナド

木村 琢也 客員教授

パロマ・トレナド 清泉女子大学准教授

私（木村）が学生としてスペイン語を勉強していた1980年代に比べて、今は本当にスペイン語が身近になったと感じます。インターネットを使えばスペイン語のサイトが無数にあり、スペイン語のテレビやラジオを視聴することも簡単にできます。スペイン語に限らず、学習中の外国語を使って情報のやりとりをするのに、わざわざ現地に出向かなくてもよくなったわけです。

とは言え、新しい外国語を学び始めるときの苦労が軽くなったわけではありません。最初に発音、語彙、文法を少しずつ学んでいかなければならないのは相変わらずです。この科目の特徴のひとつは、会話や講読の文章をすべてスペイン人のパロマ・トレナド先生が書いたということです。日本人教師が書くとどうしても説明しやすいようにという邪念がはいった不自然な文章になりがちですが、この科目では最初から限りなく本物に近いスペイン語に取り組みます。ぜひ習ったことを生かしてスペイン語で情報を受信、発信できるようにがんばりましょう。

疾病の成立と回復促進（'17） 導入科目

千葉大学大学院教授
（放送大学客員教授）岡田 忍（おかだ しのぶ）　愛媛大学大学院教授
（放送大学客員教授）佐伯 由香（さえき ゆか）

岡田 忍 客員教授

佐伯 由香 客員教授

これから私たちが直面する超高齢化社会では、いかに健康な状態で長く生きるか、いわゆる「健康寿命の延伸」が重要になります。「健康寿命の延伸」を実現するには、医療職だけでなく、一人一人が自分の健康は自分で守るという意識を持ち、がんや心筋梗塞、肺炎、糖尿病といった病気の予防、医療に対して主体的に取り組むことが必要です。本科目はそのための基礎となる病気のメカニズムについて学ぶ科目です。

昨今、健康問題を取り上げた様々な番組が放送されていますが、内容が体系化されていないため、知識が断片的になりがちです。本科目は、基本的な病気の成り立ちについて解説した後、生命や生活に必要な機能をどのように病気が障害するかという視点から代表的な病気について学ぶという構成になっています。准看護師の看護師養成課程の卒業単位でもあるため、専門的な内容も含まれていますが、専門職以外の受講生の理解を助けるような工夫をしていますので、多くの方に受講していただき、「健康寿命の延伸」に貢献しましょう。

障害を知り共生社会を生きる（'17） 専門科目

愛知県立大学教授
（放送大学客員教授）吉川 雅博（よしかわ まさひろ）

吉川 雅博 客員教授

障がいのある生活を支援する（'13）では、3章分を担当しました。今回の17年度開設科目では、私ひとりで15章すべてを担当します。健常者は、障害は自分とは関係ないと思っている人が多く、積極的に障害のことを知ろうという人はほとんどいません。実は後天的に障害者となった人のほうが圧倒的に多いのです。虐待防止法や差別解消法という法律ができても偏見や差別がなくならないのは、「障害」を知らないことが、大きく関係していると考えています。障害者は偏見や差別の典型的な対象者です。障害を身近なものとして知ることを目的に、特になじみがうすく、外見ではわかりにくい障害として、難病、精神障害、高次脳機能障害、高齢難聴、さらに、身体障害者補助犬（介助犬）などを取り上げました。ことばの説明だけではわかりにくい障害者の実情をできるだけ多くの映像をみることで、ひとりでも多くの方が、障害の種類やいろいろな症状を知る機会になることを願っています。

発達心理学概論（'17） 導入科目

放送大学准教授（心理と教育）向田 久美子（むかいだ くみこ）

向田 久美子 准教授

人は誰しも、赤ちゃんとして生まれ、子ども時代を過ごし、青年期を経て、成人になり、やがて老い、死を迎えます。人類の誕生とともに繰り返されてきたこのプロセスを、科学的に探究するのが発達心理学です。「発達」とは、ある遺伝的要因をもって生まれた個人が、周囲の人的・物的環境と相互作用しながら、自らの生きる場や道筋を主体的に紡ぎ出していくプロセスと言えるでしょう。80年余りの長きわたる人生においては、個人と環境とがうまくかみ合い、順風満帆な時期もあれば、思うにまかせず、荒波や強風に揉まれる時期もあることでしょう。

本科目では、人間の一生を乳児期から老年期まで7つの段階に分け、各時期にどのような心身の変化が生じるのか、どのような経験をしやすいのかについて見ていきます。放送では、ゲストによるトークのほか、関連する音楽や映画も紹介しています。放送を聞きながら、ご自分やご家族の過去や現在、未来に思いを馳せていただければと思います。

化学結合論−分子の構造と機能（'17） 導入科目

放送大学教授（自然と環境）橋本 健朗（はしもと けんろう）

橋本 健朗 教授

空気、食物をはじめ物質なしに生きられないし、自分の体も複雑な化学反応系です。けれど多くの人にとって、原子、分子を意識することは普段ほとんどないですよね。「NaClがイオン結合で、H_2は共有結合」、聞いたことはあるのでは？ でも、正と負のイオンが引き付けあうのはいいとして、水素原子はなぜ結合するのでしょう？ そんな疑問から始めて、生活に彩を与えてくれる色素や、インフルエンザの薬のタミフルまで、高校までとは一味も二味も違う化学を学びます。原子の大きさは10^{-10}m程度ですが、ヒトの細胞の核の中にあるDNAを伸ばすと1mくらいになります。人生で、分子の大きさを気にしたことはなかったのでは？ 周期表や化学結合ができる仕組み、半導体とはどんなものか、遺伝情報の伝達、放射線の影響等々、コスパのいい科目ですかね。もちろん、ミクロな世界だからこその、ちょっと難しい話もします。現代化学の考え方や、先端研究とその現場の空気も知ってほしいので。

ソーシャルシティ（'17） 専門科目

放送大学准教授（生活と福祉）川原 靖弘（かわはら やすひろ）
福岡大学教授（放送大学客員教授）齋藤 参郎（さいとう さぶろう）

川原 靖弘 准教授

齋藤 参郎 客員教授

初めて訪れた街で、見慣れた商用施設以外にどこに行ったらいいかわからず、新鮮味のない体験をして帰ってくる経験をすることがありませんか？ 交通の利便性やモノの消費価値を追求した近代のまちづくりによる、住民同士のコミュニケーションの減少や来街者に対する魅力が薄くなる状況は問題視され、まちの価値の創出方法に関する議論は様々な視点から行われています。

スマートフォンなどの情報端末が普及した今日、人や施設が常に仮想空間と接続（オンライン）する街で、日常利用されるソーシャルメディアが促進する、街でのコミュニティ形成と街の活性化に注目した、新たなまちづくりへの挑戦が始まっています。本講義では、情報通信技術を用いて、人と人、人とまちとのコミュニケーションを促し、活性化を図っている街を「ソーシャルシティ」と呼び、その街の仕掛けについて、実際の例を交えながら技術及び社会行動解析の側面から解説しています。日常の暮らしの中での豊かな体験を可能にする、これからの街について考えるための一助となれば幸いです。

在宅看護論（'17） 専門科目

大阪市立大学大学院教授（放送大学客員教授）河野（こうの） あゆみ　慶應義塾大学教授（放送大学客員教授）永田（ながた） 智子（さとこ）

河野 あゆみ 客員教授

永田 智子 客員教授

医療技術の進歩とともに人々の病気や障害は慢性化してきています。以前なら、長期間、入院治療していた病気も、今では外来通院しながら自宅で暮らすことが増えてきています。そのような人々の暮らしを支援する看護が在宅看護です。

在宅看護は訪問看護ステーションを始め、在宅ケア機関、医療機関の退院支援部門などから提供される看護を基盤としています。本科目では、在宅看護の基本的知識や考え方を体系的に示しているほかに、生きた在宅看護実践をご紹介しています。講師陣が在宅看護の現場に出かけ、在宅療養や看護実践の様子など、貴重な映像を豊富に取り入れていることが本科目の特徴です。また、媒体や在宅療養事例などを講義で用いるなど看護実践内容をイメージとして理解しやすいように、工夫しました。制度やケア方法など、在宅療養の際に実際的に役立つ情報も提供しています。

本科目を受講いただくことで、すでに看護に携わっている方も、初めて看護を学ぶ方も、在宅看護に魅力や良さを感じていただけると思います。

現代社会の児童生徒指導（'17） 専門科目

中央大学教授（放送大学客員教授）古賀（こが） 正義（まさよし）　一橋大学大学院教授（放送大学客員教授）山田（やまだ） 哲也（てつや）

古賀 正義 客員教授

山田 哲也 客員教授

本授業は、教師をめざす方や指導のあり方をより深く理解したい方を対象としています。児童生徒指導は、生活指導とも呼ばれ、学校での子どもたちの社会性や市民性の育成に不可欠な活動です。現代の社会はグローバル化や情報化が進み、教育の格差が拡大しています。よりよい市民として社会に参加参画するために、学校で集団生活や対人関係を育む活動に参加し、多元的な能力や経験知を獲得する必要があります。現在学校には、いじめや不登校、非行あるいは虐待など多くの問題が存在しています。リスクに直面し生きづらさを訴える子どもも少なくありません。こうした問題を、メディア報道などから一面的に理解するのではなく、日常の学校生活と関連づけながら正確に理解し指導することが肝要です。児童生徒の仲間関係や対教師関係の特質、改善的な指導に向けた子ども理解、外部との連携による指導の可能性など、児童生徒指導をめぐる現実的な課題とその基礎的な理論を15回にわたって紹介していきます。

心理統計法（'17） 専門科目

早稲田大学教授（放送大学客員教授）豊田（とよだ） 秀樹（ひでき）

豊田 秀樹 客員教授

心理学はデータに基づいて心のメカニズムを客観的に研究する学問です。この授業では心理学を研究するために利用される心理統計法を勉強します。心理学も統計学も、まったく勉強したことのない学生さんのための入門的内容です。でも入門的講義であると同時に、心理統計学の再入門のために利用して欲しいと願っています。心理統計法を利用して心理学を研究している方、あるいは大学で心理統計法を講義している先生方も歓迎します。これまでの心理統計法の入門的授業は、有意性検定の利用を前提としていました。でも、心理統計法の本家といってもいい統計学の世界では、現在、大きな変化が起きています。それは「有意性検定からの脱却」です。この授業では有意性検定を使いません。代わりにベイズ的アプローチを使って心理データを分析します。有意性検定に頼らない新しい時代の心理統計法を講義します。だから、入門的講義であり、同時にプロの心理学者が聴いても新鮮な再入門の講義にもなります。宜しくお願いします。

比較認知科学（'17） 専門科目

京都大学教授
（放送大学客員教授）藤田（ふじた） 和生（かずお）

藤田 和生 客員教授

「比較認知科学」は、ヒトを含む動物たちのこころの働きを実験や観察により分析し、相互に比較することから、こころの働きの進化を明らかにしようとする行動科学です。

ヒトは自分たちがほかの動物たちとは一線を画した「賢い」存在だと思いがちです。しかし動物たちのこころの働きを、いろいろと工夫して調べていくと、実は決してそうではないことがわかってきました。動物たちは、単に刺激に応答しているのではなく、実は私たちと同じように、環境情報を積極的に処理し、経験に学び、深く考え、複雑な感情を抱き、将来のことすら計画しながら、巧みに生きているのです。

この授業では、さまざまな動物たちの学習や、色や形の認識、思考や感情、社会的知性、意識や内省などを最新の研究成果を通じて学びます。トピックとして、高度な知性を示す、チンパンジー、カラス、イヌ、イルカのこころを取り上げていきます。これらを通じて、ヒトとはいかなる存在なのかを考え直し、地球化時代のあらたなヒト観の構築を目指します。

乳幼児・児童の心理臨床（'17） 専門科目

放送大学准教授
（心理と教育）小林（こばやし） 真理子（まりこ）
日本女子大学教授
（放送大学客員教授）塩崎（しおざき） 尚美（なおみ）

小林 真理子 准教授

塩崎 尚美 客員教授

日本の社会における子どもをとりまく状況は、この十数年に大きな変化を遂げ、それに伴い、心理臨床の場で出会う子どもの姿や現れる問題が姿を変えてきました。家族形態の変化や育児ストレスの増加、発達障害と診断される子どもの増加、児童虐待やいじめ、不登校の背景要因の複雑化など、従来通りの支援では対応が難しい事例が増えています。支援の方法も、基本的な親面接や遊戯療法に加えて、認知行動療法やグループアプローチ、コミュニティでの支援など、多様な技法を身に着けることが求められています。

そこで本科目では、それらの方法を紹介するとともに、近年注目されているトピックスをとりあげ、教育、福祉、小児医療、保育・子育て支援のさまざまな領域の心理職の役割について学ぶことができるように構成しました。放送授業では臨床現場のロケやインタビューを通して生の声をお伝えします。多様化する社会のニーズに応えられる支援者となるために、本科目の学びが活かされることを願っています。

環境問題のとらえ方と解決方法（'17） 導入科目

放送大学教授
（社会と産業）岡田（おかだ） 光正（みつまさ）
横浜国立大学大学院教授
（放送大学客員教授）藤江（ふじえ） 幸一（こういち）

岡田 光正 教授

藤江 幸一 客員教授

身近な河川の水質汚濁、工場跡地などの土壌汚染から、隣国などから移動してくる越境汚染、さらには地球温暖化まで、私たちは様々な環境問題に直面しています。しかし、環境問題とは何であるか？ 目の前の「問題」を深刻に受け止める人もいれば、本当に問題なのかと疑問を持つ人もいます。さらに、問題だと皆が思ってもその対策には大変な努力が必要です。大きな費用もかかります。すると、問題でないと逃げ出す人もいるでしょう。この講義では、このような環境問題の具体例として、大気、水・地下水・土壌、廃棄物、都市のヒートアイランド、化学物質、生態系、地球環境といった様々な環境問題の現状と解決方法、さらにそのための対策技術についても学んでもらいます。そして、これらを通じて、様々な環境問題をどのようにとらえるか？ つまり、何が、どの程度問題か？ そして、それをどのように、またどこまで解決するか？ といった具体的な方法論を学んで欲しいと思います。

雇用社会と法（'17） 専門科目

北海道大学名誉教授（放送大学客員教授） 道幸（どうこう） 哲也（てつなり）

道幸 哲也 客員教授

長時間労働にともなう過労死・過労自殺やセクハラ・パワハラ等のハラスメント事案はメディアで頻繁にとりあげられています。賃下げやリストラ等に由来する職場でのトラブルも身近なものになり、不安定雇用である非正規労働者も増加する傾向にあります。雇用社会は大きく変貌しそれに伴い多くの法的な紛争が生じています。

この講義では、雇用をめぐるトラブルをどう法的に解決するかの観点から関連する法律上の規定や裁判例を素材に、紛争発生のメカニズムや利害の対立状況、裁判例の流れや論理さらに法的な解決の限界についても考えます。暗記よりも議論の筋を知ることを重視しています。

内容的には、労働法の全領域を一応カバーしていますが、最近急増しているハラスメント等の人間関係紛争について詳細に紹介するとともに権利をどのように実現するかにも目配りをしています。法的なルールを知るだけではなく、働くことことの意義を考える契機になればと思います。

NPOマネジメント（'17） 専門科目

放送大学教授（社会と産業） 河合（かわい） 明宣（あきのぶ）
聖心女子大学教授（放送大学客員教授） 大橋（おおはし） 正明（まさあき）

河合 明宣 教授

大橋 正明 客員教授

社会の変化に対し、日常生活に必要な公的サービス提供に限界が見える。多様なニーズに対するサービス提供の担い手とその多様化を促進するため、1998年特定非営利活動推進（NPO）法、公益法人法改革、2001年認定NPO法人制度、2008年税制改正による税優遇措置等が導入された。

2007年開設の本科目は、こうした制度及びニーズの変化を2017年３度目の改訂によって反映させた。障害者（児）への福祉活動、環境保全、国際協力等の分野で活動する団体の組織運営や経営（財政）に注目している。NPOやその制度がニーズの多様化にどう対応しているか、同じ事例を基に、具体的に説明している点に特色がある。今回、東葛飾市民後見人の会、また財政面では、事業型NPOと社会的企業、NPOやボランティア支援の中間支援組織の説明を加えた。国際協力NGOシャプラニールの活動スタイルの変遷と現状の活動を通して、国の内外で活動するNPOの新しい方向を紹介する。NPOの具体的活動に触れてより身近に感じ、NPOへの多様な関わりが芽生えることを願っている。

フィールドワークと民族誌（'17） 専門科目

放送大学教授（人間と文化） 稲村（いなむら） 哲也（てつや）
国立民族学博物館教授（放送大学客員教授） 池谷（いけや） 和信（かずのぶ）

稲村 哲也 教授

池谷 和信 客員教授

この科目では、日本、アジア、アフリカ、南米の各地で二人の講師が行なってきた「フィールドワーク」と、その成果をまとめた「民族誌」を、現地で撮影した写真や映像などを多用しながら紹介します。フィールドワークと民族誌は文化人類学研究の基礎となるものですが、この授業では、二人が専門とする狩猟民、牧畜民を中心にとりあげます。農耕に不向きな乾燥地、寒冷地、高地などの環境のなかで、厳しい自然と対峙し、また自然を巧妙に利用してきた人々です。

民族誌の記述においては、環境や生業とともに、日常の暮らし、社会の仕組み、外部世界との関係、また、祭りや儀礼などの非日常の暮らし、歴史や通時的変化などについても、できるだけ包括的に論じます。それらの多様な構成要素の相互関連性が重要です。

「周縁的社会」はいま急激な変化にさらされ、世界の動きと大きくかかわっています。周縁からの視点をもつことによって、世界がより鮮明に見えてくるかもしれません。

現代フランス哲学に学ぶ（'17） 専門科目

東北大学教授（放送大学客員教授）戸島 貴代志（とじま きよし）　東京電機大学教授（放送大学客員教授）本郷 均（ほんごう ひとし）

戸島 貴代志 客員教授

本郷 均 客員教授

幽霊の正体見たり枯尾花 ― だれしも一度はこういう経験があると思います。ものは必ずしも見えている通りにそこにあるわけではない。よく知られているように、このことを出発点にしてものの存在を徹底的に疑い抜き、「私は考えるゆえに存在する」に辿り着いたのがフランスのデカルトでした。「近世哲学の祖」とされるデカルトの哲学は、しかしその後様々な角度から批判されるようになってきます。とくに近世から現代へと思想の流れが変わる節目に位置するアンリ・ベルクソンは、〈考える私〉を根底で支えている存在つまり〈生〉を哲学の主題とし、デカルトのいう〈考える〉働きとは違った「直観」というダイレクトな対象把握の働きを重視しました。そしてこのベルクソンもまた、その後「実存思想」や「構造主義」等によって様々な仕方で乗り越えられてゆきます。本講義では、ベルクソン哲学を近世哲学と現代哲学の分水嶺とすることによって、現代フランス哲学の主要な流れをわかりやすく解説してゆきます。

コンピュータの動作と管理（'17） 専門科目

放送大学准教授（情報）葉田 善章（はだ よしあき）

葉田 善章 准教授

今、私たちの身の回りには、多数のコンピュータが存在しています。代表的なものは、パソコンやスマートフォンです。データ処理や、ネットワークを介したコミュニケーションなどを実現します。このほか、家電や自動車、センサーといった装置です。多数のコンピュータを組み合わせて、目的の動作を実現する制御のために用いられています。この科目では、さまざまなコンピュータの基本的な動作に注目します。

コンピュータはハードウエアとソフトウエアの2つで構成されています。ハードウエアが行う演算の基本的なしくみや、プログラムを実行するしくみから話を進めます。そして、OS、オペレーティングシステムという、コンピュータでプログラムを実行するソフトウエアの動作を学んでいきます。本科目では、直感的に理解できるよう、図や実物を使って説明しています。コンピュータを使ったサービスは高度になりつつあります。この科目の受講を通して、ふだん何気なく使っているコンピュータの基本的なしくみについて理解を深めてみませんか。

化学反応論−分子の変化と機能（'17） 専門科目

放送大学准教授（自然と環境）安池 智一（やすいけ ともかず）

安池 智一 准教授

Chemistryに与えられた日本語の名称は、変化の学問を意味する「化学」です。このことは、構造論、物性論とならぶ化学の三本柱のうちで、反応論がいかに重要であるかを端的に示しています。分子はそれ自身多様な存在ですが、反応は相手によっても変わるため、その多様性は一段と増します。我々は化学反応を日々の生活の実に様々な局面で役立てていますし、化学反応の多様性は、複雑な化学反応の総体として生命が生じることの起源にもなっています。「きわめて多様＝膨大な暗記が必要？」との危惧を抱くかもしれません。ところがそうではないのです。膨大な数の化学反応を少数のルールによって理解することができる、これこそが化学反応論の醍醐味です。放送授業では、抗がん剤になった海洋天然物や体内時計の分子機構をはじめとして、多岐にわたる研究について第一人者にお話を伺いました。物質が示す多様な世界があり、それらは反応論の言葉で繋がっている、この知的興奮を是非味わってみてください。

生活リスクマネジメント（'17）

放送大学教授
（生活健康科学プログラム）奈良（なら） 由美子（ゆみこ）

奈良 由美子 教授

今日では、リスクとその管理、また安全・安心が大きな社会的関心となっています。地域防災の担い手、医療現場や教育現場のスタッフ、企業や行政機関の担当者、そして生活者として、みなさんも様々な立場でリスクに向かい合っておられることと思います。リスクと聞いて思い浮かべる事象の種類も、自然災害、火災、交通事故、病気、消費者問題、食品や化学物質による健康被害など、多様であったことでしょう。

本科目では、リスクおよびリスクマネジメントについての理論と実践を学びます。リスクとハザードの違い、リスク認知の特性、リスクマネジメントの進め方、リスクコミュニケーションの意義と方法といった基礎をまずおさえ、自然災害、犯罪、食品、消費生活用製品といった具体的なテーマを扱いながらリスクに対して実践的にアプローチする構成になっています。

みなさんお一人お一人はリスクマネジメントの主体です。是非、ご自身の関心に引き寄せて本科目を受講なさって下さい。

成人発達心理学（'17）

放送大学客員准教授 星（ほし） 薫（かおる）

星 薫 客員准教授

大学院発達科学プログラムの科目として今年度開講された「成人発達心理学（'17）」の主任講師を務めます星薫です。老年期までを含めた成人期というのは、人の一生の中で最も長い期間を占めていますし、放送大学で学ぶ方々のほとんどが、その成人期に属していると思われます。成人期は、乳幼児期や青年期と違って、目に見える変化があまりなく、変化の乏しい時期のようにも思われるかもしれません。

しかし、今日の私たちは、80歳代の半ば近くまで生きるのが当たり前になり、成人期はますます長くなってきています。それは、我々の一生が子育てや、生計維持のための仕事を終えたら、それで終わるという時代ではなくなってきていることを意味しています。つまり、私たちの成人期は「現役」として次世代を生み育てる時代が終わったあとも、「余生」というにはあまりにも長い年月をさらに生きなければなりません。この講義を通じて、成人としての私たちの生活を再考する機会を持ってくだされば幸いです。

教育文化の社会学（'17）

京都大学大学院教授
（放送大学客員教授）稲垣（いながき） 恭子（きょうこ）

稲垣 恭子 客員教授

現代の社会では、子どものしつけから学校選び、さらに職業や結婚相手の選択まで、人生を自由に設計していける範囲が広がっています。しかし一方では、私たちの生活を枠づけ方向づける制度や慣習が後退し、先行きが見えにくい社会のなかで、選択の自由がかえって迷いや不安を大きくすることもあるでしょう。

本科目では、こどもが大人になっていく過程を支える文化について、伝統的な儀礼や慣習からメディアを介した新しい文化まで、文化社会学、歴史社会学の視点から読み解いていきます。教育文化においては、知識や技術の習得だけでなく、愛情や努力、競争心や向上心、憧れや尊敬といった感情や価値の形成も重要な意味をもっています。教育を支えてきた文化のしくみを知ることによって、短期的な目標や成果にとらわれがちな私たちの現在をみつめ直す機会になればと思います。

ラジオ教材では、さまざまな専門分野のゲストをお迎えしてお話を伺っています。いずれも深くかつ興味深い話題ですので、ぜひ楽しみつつ学んでください。

公共哲学（'17）

放送大学教授（社会経営科学プログラム）山岡 龍一（やまおか りゅういち）
早稲田大学教授（放送大学客員教授）齋藤 純一（さいとう じゅんいち）

山岡 龍一 教授

齋藤 純一 客員教授

「総理大臣の夫人は「公人」か「私人」か？」こうした問いをどのように解いたらよいのか。あるいは、どのように解くべきなのか。この探求のために必要なことの一つが「公共性」という考え方の再検討です。大学院における公共哲学が目指すことは、何らかの「正解」を提供することではなく、このような再検討を学生が自らの力で遂行するのを助けることです。そして、「公共性」に関する批判的な思考は、学生が学問的に得た知識を実践に移すうえで、極めて重要なものでもあるのです。

今回は特に、我々の生活の安全に関する題材も講義の中に取り込みましたが、それは皆さんに何らかの「正解」を提供するためではなく、我々にとって切実な事柄を、公共性の観点から学問的に探究することの意味を、理解してもらいたいからです。

学問において、「べき」という規範の問題を扱うことは大変難しいものです。公共哲学はこの困難性と向き合う挑戦的な講義だといえます。皆さんには、この挑戦を体験していただきたいと思います。

音楽・情報・脳（'17）

放送大学教授（情報学プログラム）仁科 エミ（にしな）
公益財団法人国際科学振興財団研究主幹（放送大学客員教授）河合 徳枝（かわい のりえ）

仁科 エミ 教授

河合 徳枝 客員教授

音楽は私たちに感動や楽しみを与えてくれるだけでなく、脳をはじめとする身体にもさまざまな影響を及ぼします。例えばある種の音楽には周波数が高すぎて人間には聴こえない超高周波が含まれ、その響きは中脳・間脳、前頭前野などの脳血流を増大させ、免疫活性の増大、ストレス性ホルモンの低下などの生理反応を導くと同時に、音の感動を深めます。そうした超高周波を含む音は伝統的地域共同体の祝祭に高密度で分布し、人々を結集させることに貢献している事例が報告されています。

この講義では、情報学を中心に脳科学、民族芸術学、人類学などの先端的な知見を融合し、人間にとっての音と音楽の意義を学際的・多角的に考えていきます。ラジオ科目ですが、キャンパスネットワークの［資料室］→［インターネット配信・ラジオ科目ネット配信］→［ラジオ字幕番組配信実験］を選択すると、図や写真、字幕を見ながら講義を聴くことができます。ぜひ字幕とともに受講してください。

データの科学（'17）

放送大学准教授（情報学プログラム）浅井 紀久夫（あさい きくお）
放送大学教授（情報学プログラム）辰己 丈夫（たつみ たけお）

浅井 紀久夫 准教授

辰己 丈夫 教授

Webブラウザで検索エンジンに検索語を入れようと、一文字入力したら、自分が検索しようとしていた語句が表示されます。インターネットショッピングのサイトを訪れれば、自分が欲しいと思っていた商品が推薦されています。インターネット上で人と交流するSNSでは、驚くべき確度で知り合いが表示されます。こうしたことは、ビッグデータ時代になって可能になってきたことです。

情報通信技術の進展によって、ありとあらゆるものがデータ化され、大量のデータが交換されるようになりました。そうしたデータから有用な情報を得ようと、データ分析の様々な取り組みが行われています。また、データを提供する側も、データを利用する側も、個人の特定とプライバシーの問題に配慮しなければいけなくなっています。この科目では、データ分析処理に必要な基盤技術と基本的なデータ分析手法について学ぶと共に、データ科学の時代における暮らしや仕事のあり方など、今後の展望を考えます。

学生論文集「Open Forum 第13号」発行

教務課

刊行されて以来、好評をいただいているOpen Forum。このたび第13号を発行しました。本書は、2015年度の大学院修士課程修了生の修士論文を基にした学生論文集です。

放送大学大学院の学生たちは、どのような環境で、目標を立てて学んでいるのか？どのような形で教員の指導が行われているのか？ 学生の研究成果は？ ―― Open Forumはこのような疑問に具体的にお答えする冊子です。各学習センターで閲覧できますので、ご興味のある方、修士課程への進学をお考えの方は、ぜひ手にとってご覧ください。また、各学習センター・本部(郵送のみ)においても販売を行っています。

詳しくは、http://www.ouj.ac.jp/hp/gakuin/open_forum.htmlをご確認ください。

通常価格 823円(税込)／本学学生価格 658円(税込)

ON AIR個別発送終了のお知らせ

平成30年度よりON AIRは学生の皆様への個別発送を終了することにいたしました。背景にはインターネットの普及およびICT活用の推進がありますが、なにより、約9万人が在籍する全学生への印刷及び発送費用がかさみ財政を圧迫しているため、その削減が最大の理由です。ご愛読くださっている学生の皆様にはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、内容を刷新し、より楽しくご愛読いただける内容を目指して鋭意企画中ですので、何卒ご理解をいただきたくよろしくお願いいたします。

平成30年度以降は、単位認定試験期間にあわせた発刊として、ホームページで閲覧(pdf版)というスタイルになります。なお、学習センターでは冊子版を入手できますので、冊子のON AIRをご希望の方は学習センターまでお越しください。

詳細については次号でお伝えいたします。今後ともON AIRをよろしくお願い申し上げます。

平成29年6月　学内広報委員会委員長 山田知子

編集後記

桜の季節の移り変わりと時期を同じくして、卒業生・修了生を送り出し、また新たな学生を迎えるのは毎年の行事ですが、今年は学生の皆さんだけでなく、放送大学にとっても去る者を送り、来る者を迎える大きな節目の年となりました。

今回お届けしたON AIR124号の特集は、前執行部の6年間の集大成ともいえる「学位記授与式・卒業祝賀パーティー開催報告」です。もう一つの特集は、新学長・新理事長・新副学長の挨拶です。まさに、去る者あれば来る者ありというところですが、そうした感慨にいつまでもひたってるわけにもまいりません。新執行部のもと、気持ちを新たに学生の皆さんの学問への取り組みを全力で支援したいと思います。(編集委員・芝﨑順司)

学内広報委員会 (2017年度)

委員長	教授	山田　知子
委　員	教授	大曽根　寛
	教授	苑　復傑
	教授	児玉　晴男
	教授	宮下　志朗
	教授	芝崎　順司
	教授	松井　哲男
オブザーバー	副学長	池田　龍彦
編集事務担当		総務部広報課

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp

放送大学
http://www.ouj.ac.jp/　ISSN 1343-3369